



製品（工業用丸缶）

主な事業内容

金属容器（スチール缶）製造・販売、精密プレス部品製造

主な取引先（納入先）

塗料メーカー、食品メーカー、医薬品メーカーなど

主な製品

工業用缶（丸缶、角缶、山高缶）、ブルトップ缶など

業務内容

塗料用や食品用の
スチール缶が主力

清水金属工業は、金属容器の専門メーカー。一部アルミニウム缶を手がけているが、売上の大半はスチール缶である。塗料会社向けと食品会社向けが、それぞれ売上の3分の1を占め、ほかにも医薬品会社向けや化粧品会社向けなどを幅広く展開している。

創業は昭和7年。清水俊一社長の祖父が立ち上げた。ブリキの加工技術を持っており、近隣の医薬品会社に缶を納めるようになったのがきっかけだった。清水社長は「塗料会社からも声をかけられたようだ」と説明する。医薬品会社も塗料会社も、工場は関西に集中している。その「地の利」を生かしている点は、今も変わらない。

強み
主要な製品は
専用のラインで製造

同社の強みは何といっても、その歴史の深さだろう。「当社と同じ時期に創業した金属容器のメーカーは、4社ほどしか残っていません」と清水社長は言う。長年にわたって築き上げてきた得意先との信頼関係は強い。多種多様な金属容器を作る典型的な

多品種少量生産型企業だが、主要な製品は専用のラインで作る仕組みになっている。製品ごとにラインを切り換えるのではなく、納期や数量などの注文に合わせ、固定ラインに人を移動させるのだ。こうすることで納期を守り、在庫も最小限に抑えられる。1個だけの注文でも、この方式なら応じることができるという。

社生
蓋や底などの
プレス部品も自社で製造

清水社長が「当社の一番の売り」というのが、金属容器の胴体部分だけでなく、蓋や底などのプレス部品も、9割ほどを自社で製造していることだ。金属容器を丸ごと自社で生産できるため、納期短縮・コスト削減につながるだけでなく、品質も守れる。この強みは、特に内容の漏れ出しなどが許されない塗料や溶剤用の缶の製造で、威力を発揮する。

金属容器の丸ごと生産や、一品からの製造が可能という強みを持つ同社は、その特徴を生かし、オリジナル缶の製造もしている。記念品などに使う特注デザインの缶だ。同社のイメージアップにも一役買う事業である。

社長あいさつ

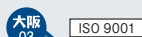


代表取締役
清水 俊一さん

当社は昭和7年の創業以来、金属容器の製造・販売業者としてお客様に製品を安定供給する使命を追求してきました。金属容器のスチール缶は分別・回収のルートが確立されており、98%ほどがリサイクルされています。循環型社会に寄与する製品をこれからも提供し続けます。

主な保有設備

- 丸ロックシーム缶製造ライン
(1万～1万4,000缶/日)
篠宮製作所製ほか 5台
- 丸溶接缶製造ライン
(1万5,000～2万1,000缶/日)
Soudronic製ほか 4台
- 角溶接缶製造ライン
(1万缶/日)
Soudronic製ほか 3台
- プレス機
(3,000～3万5,000ショット)
アマダ製、コマツ産機製ほか 40台



住 所／〒569-0857
高槻市
玉川1-5-1

T E L／072-678-5888

F A X／072-678-5891

創 業／昭和7年1月

設 立／昭和22年8月

資本金／1,200万円

従業員／25名



製品（企画品）



製品（工業用角缶）



<https://www.smkk.co.jp/>